

〈社会部会〉

I 研究主題

「観点別学習状況の評価を生かした個に応じた学習指導の研究開発」

II 研究の概要

平成13年度は「指導と評価」に関する研究の第1年次として「評価規準の設定」「評価方法」「総括の仕方」等の研究開発を行い、平成14年度は「指導を要する状況の明確化」「ワークシートを活用した4観点におけるつまづきの評価とその対応」「指導の実際」の研究開発を行った。今年度は、第3年次として、観点別学習状況の評価を生かした補足的な指導や発展的な指導など、さらなる個に応じた学習指導法の開発を行った。その際、単元の学習過程を工夫し、補足的な指導や発展的な指導を行う場面を設定した。また、ワークシートや補助簿等を工夫・改善するとともに「社会科カード」の活用を図った。

III 研究の内容

1 指導と評価の計画立案から評価の総括までの流れ

研究主題を受け、過去2年間の研究から、指導計画と評価計画の立案、実際、総括の流れを明確にし、本研究主題にかかわって特に重点となる研究内容を下図に網掛けとアンダーラインで示した。

◇指導計画と評価計画の立案

単元の目標の設定
評価規準の設定

学習活動に即した具体的な評価規準の設定

単元の指導と評価の計画の作成
・評価場面
・評価方法

- 学習過程の中での個に応じた指導を行う場面の設定
- 「課題の設定」「課題の追究」「課題の補充・深化・発展」の各過程で評価する視点と「おおむね満足できる」状況（B）と判断する具体的な姿の明確化

◇指導と評価の実際

計画的・継続的な指導と評価

指導と評価の実際
※個の学習状況の的確な評価と指導
●補助簿・ワークシートの活用
●社会科カードの活用
●評価を生かした次時の授業の改善

個に応じた指導
●補足的な指導
●発展的な指導
・資料提示、課題プリント等

◇単元の総括

単元ごとの評価の総括

観点ごとの評価資料のまとめ
※校内での評価・評定方法、総括の仕方等の共通理解

説明責任、改善
●社会科カードの活用
●通知表
●その他の個に応じた指導

2 指導と評価の計画作成における補充的・発展的な指導を取り入れた学習過程の開発

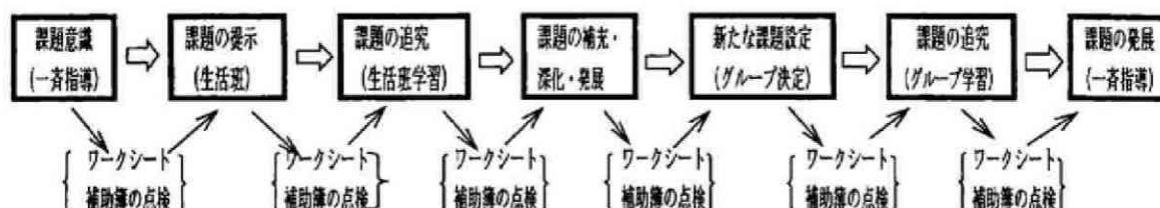
(1) 指導と評価の計画作成における学習過程の開発

日々の授業の中で、「おおむね満足できる」状況（B）を的確に評価し、その評価をもとに、個に応じた手だてを行うことは大切なことである。しかしながら、現実には、教師主導による一斉指導の中だけでは、生徒に的確な手だてをすることは難しい。

そこで、各時間において、作業的な学習や体験的な学習を取り入れ、個に応じた指導をする場面を設定した。また、学習過程の中で、ワークシート等を活用しながら個別やグループ別による適切な課題を設けて行う学習活動の場面を設定し、その中で補充的な指導や発展的な指導を行う学習過程の開発に取り組んだ。

具体的には、単元構成の中で、二度の質的に異なるグループによる適切な課題を設けて行う学習を実践した。一度目は教師が課題を設定し、生活班で取り組ませた。二度目は生徒に課題を設定させ、同じような課題を設定した生徒同士によるグループで取り組ませた。その際、前時までの評価を生かして個に応じた指示や資料を提示し、補充的な指導や発展的な指導を行った。

なお、一度目のグループ学習で「努力を要する」状況（C）にあると判断した生徒については、できるだけ同じグループにならないように配慮した。



(2) 確かな評価と的確な指導の手だて

下に示した表は、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現」「社会的事象についての知識・理解」の4観点を、「課題の設定」「課題の追究」「課題の補充・深化・発展」のそれぞれの学習過程で的確に評価し、指導に役だてていくための資料の一部である。社会科の観点の趣旨を分析し、「おおむね満足できる」状況（B）を具体的な生徒の姿で表現することにより、実際の授業において、「努力を要する」状況（C）にある生徒への具体的な手だてや「十分満足できる」状況（A）と判断する視点を明確にし、補充的な指導や発展的な指導を適切に行っていくことが可能となる。

過程	評価する視点	「努力を要する」状況（C）と判断する具体的な姿	指導の手だて	「十分満足できる」状況（A）と判断する視点	発展的な指導
課題の設定	★関心・意欲・態度 （出会った社会的事象に対する関心を示している姿） ・疑問を持つ、問題点を見つける、調べたいことを見つける。（記述する） ・集中して、自ら進んで、活動をする。（活動の様子） ・比較、変化や違いに着目（着目点）	・疑問や見つけたことを発言しない、記述しようとしなない。 ・活動が学習内容と対応していない。 ・資料の内容が理解できない。 ・資料を読んだり活用しようとする姿勢が見られない。 ・資料の何を見ていいかわからない。（考えようとしていない）	・資料や情報の補足説明や示唆。（分かりやすい言葉による説明、他の資料や事例の提示、板書を使った助言、生活経験への振り返りの示唆） ・体験的な活動や遠体験の示唆、ポイントを絞った助言。	・事象に対して、驚きや疑問がもて、多面的に課題解決に迫っている。 ・様々な立場に立って意見を言ったり、記述したりしている。 ・進んで的確に活動している。	・多面的な見方を評価するとともに、追究への意欲を促す。 ・やや高度な情報を提示し、興味・関心を深める。

この資料は、すべての単元で作成するわけではないが、各過程について、いずれかの単元で作成しておくと、他の単元にも共通して活用することができる。

(2) 補助簿の活用

生徒の観察に際し、座席表形式や名簿形式の補助簿の活用が考えられる。座席表形式は、一斉授業の中での生徒の発言やグループ活動中の様子を記録することに有効であり、名簿形式は、ノートやワークシートの評価を記録する場合などに有効である。検証授業では名簿形式の補助簿を活用した。

- ① 名簿形式の活用例 (p19を参照)
- ② 座席表形式の活用例

しかし、補助簿には決まった形があるわけではないので、授業者が記入しやすく継続して評価できるものを工夫することが大切である。

	関	思	資	知
氏名	A		A	
関A 様々な立場から意欲的に調べようとしている。				

	関	思	資	知
氏名	C		C	
資C 資料の数字の読み取りが正確にできない。				

(十分満足できる状況 (A)、努力を要する状況 (C) または特筆すべき状況などについてのみ座席表に記録しておく)

(3) 社会科カード (検証授業を行った学校では「社会科カルテ」と名付けた。)

社会科カードは、毎時間の評価の観点を明確にし、生徒に自己の振り返りをさせるとともに、授業後に回収して教師も評価やアドバイスを記入して返却し、個に応じた指導に役立てることに活用できる。また、単元の終わりには、各観点についての総括を生徒に自己評価させるとともに教師もその単元の評価を生徒に示し、次の単元における生徒の学習意欲の高揚や授業改善に役だてていくこともできる。

3年()組()番
氏名()・()班

社会科カルテ

[単元名]
[]

この単元で身につける力

- ㊦ 身近な生活と政治への関わりに関心を持ち、住民の一人として地域の課題を意欲的に究明し、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を高める。 <関心・意欲・態度>
- ㊦ 地域住民として積極的な政治参加の意味について考え、主権者としての自分のあり方について考えることができる。 <思考・判断>
- ㊦ 地域の問題点や課題について様々な調査し、調査した内容をまとめ、提言する。 <資料活用の技能・表現>
- ㊦ 地方自治の仕事や仕組みを理解し、事例を通して、住民自治の考え方が地方自治の基本的な考え方であることを理解できる。 <知識・理解>

<評価の記録>

1	【関】 区民の要望をもとに、意欲的に地域の課題を考えた	A / B / C
	【資】 資料を適切に活用し、備蓄品についてのワークシートへの記入ができた	A / B / C
2	【関】 備蓄倉庫の見学や資料、聞き取り調査から地域の防災についての関心が高まった	A / B / C
	【思】 環境面や構成人員などの面から考察することができた	A / B / C
3	【関】 防災課の方、消防署の方、消防団の方との意見交換に関心を持って取り組めた	A / B / C
	【資】 意見交換で、適切な意見や質問を述べる事ができた	A / B / C
4	【思】 前時の内容を振り返り、解決への方策を見直すことができた	A / B / C

生徒の利点として、生徒自身が授業の見通しがたち、自分の学習を振り返るとともに、学習過程の中で自分の努力の成果がどう評価されたのかを理解することで、学習意欲が高まっていく。

教師の利点として、生徒一人一人の学習状況を単元の評価規準に照らしながら観点別に把握できる。また、生徒一人一人の記録をみることによって、生徒への学習への手だてがしやすくなり、目標に準拠した評価の信頼性を高めることができる。

しかし、これも多用すると、生徒の負担過重になり、授業者にとっても評価やアドバイスに追われることになる。継続して指導に生かせるものを工夫することが大切である。

社会科カードの活用例 (p19を参照)

IV 指導事例

1 単元名 公民的分野 現代社会の民主政治とこれからの社会『民主政治と政治参加』

2 小単元名 「地方自治」

3 小単元の目標

- ① 住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であることについて理解する。
- ② 住民の意思が政治に十分反映されるようになるためには、一人一人が政治に対する関心を深め、主権者であるという自覚を深めることが大切であることに気付く。
- ③ 主権者として、公正な世論の形成と政治参加の在り方について考え、地方自治の発展に寄与しようとする自治意識を高める。

4 単元の評価規準

	単元の評価規準	小単元の評価規準	具体的な評価規準
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	国や地方公共団体の政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な生活と政治への関わりに関心が高まっている。 ・ 住民の一人として地域の課題を意欲的に追究している。 ・ 地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識が高まっている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域の課題に対して関心を持ったことを意欲的に考えたり、ワークシートに記入したりしている。 ② 防災課の方々との意見交換に意欲的に取り組んでいる。 ③ グループの課題づくり・解決の方策について意欲的に追究している。 ④ 地域の他の課題へ意識が広がっている。
イ 思 考 ・ 判 断	国や地方公共団体の政治に関して、議会制民主主義や選挙の意義について多面的・多角的に考察し、民主的な政治のあり方について様々な考え方や立場から公正に判断している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民としての積極的な政治参加の意味について多面的・多角的に考察している。 ・ 主権者としてのあり方について、現実の政治に対する様々な考え方や住民の立場から公正に判断している。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域の防災について、環境整備、構成人員などの人的な面などから考察し、課題を見出している。 ② 防災課の方々との意見交換を通して三つの立場の異なる視点から考察している。 ③ 設定した課題への解決策を多面的・多角的に考察している。 ④ 自分と地域・地方公共団体とのかかわりを考えている。
ウ 資 料 活 用 の 技 能 ・ 表 現	国や地方公共団体の政治に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の問題点や課題について様々な調査したり、情報を収集したりしている。 ・ 調査した内容や収集した情報から、役立つものを適切に選択し、活用している。 ・ 自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方とその考え方に基づく地方公共団体の政治の仕組みなどを追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 備蓄品についてワークシートへ記入し、まとめている。 ② 資料や備蓄倉庫の見学を基に地域の防災についての情報をまとめている。 ③ 防災課の方々との意見交換で、適切な質問や疑問点、意見を発表している。 ④ 自分たちの発表について、わかりやすく説明できたかどうかを自己評価カードに記入し、質問に対して適切に回答している。相互評価カードでは、分りやすく説明している評価を得ている。
エ 知 識 ・ 理 解	地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組み、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらまし、政党の役割、多数決の原理とその運	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例を通して、住民自治の考え方が地方自治の基本的な考え方であることを理解できる。 ・ 地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていることを理 	<ol style="list-style-type: none"> ① 地方公共団体の首長と議会、その関係について理解し、ワークシートに記入している。 ② 住民の権利・義務について理解し、身に付けた知識を問うペーパーテストに回答している。 ③ 学習の結果理解した内容として、ワークシ

用の在り方、法に基づく公正な裁判の保障について理解するとともに、公正な世論の形成と国民の政治参加の大切さに気付き、その知識を身に付けている。	解し、その知識を身に付けている。	<p>一に次のことを記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民自治の考え方が地方自治の基本的な考え方であること ・ 地域の防災では、中学生としてできること、求められていること、役割があること
--	------------------	---

5 指導計画・評価計画 (10 時間)

過程		学習活動	ア	イ	ウ	エ	評価に基づく手だて ○:努力を要する生徒への指導 ◇:発展的な指導
課題の設定	1	「今後力を入れて欲しいこと」の調査結果から、地域の課題を考える。備蓄倉庫の見学。	① シート 観察		① シート 観察		○一緒に資料の読み取りをし、日常生活を想起させる。
	2	地域の防災について考える。		① シート 観察	② シート		○学校周辺の様子や資料から考えられるように示唆する。
課題の追究	3	防災課、消防署、消防団の方と意見交換をする。	② 観察 発言		③ 観察 シート		○グループに教師が入り、発言を促す。
	4	意見交換を振り返り、方策を見直す。		② シート 観察			○課題や意見交換の内容を一緒に確認し、方向性を示す。 ◇地方公共団体の関係部署に意見書を書こう、と助言する。
課題の補充・深化・発展	5	地方自治体の仕組みや住民の権利について理解する。				①② シート テスト	○都・区・市の広報誌などの資料の補足説明を、分かりやすい言葉で行う。 ◇全国の興味のある条例を探し、地域の願いや実情などの違いに気付かせる。
	6 7 8	地域の課題を考える。 課題の解決策を探る、考える。	③ 観察 シート	③ 観察 シート			○日常生活と関連付けて、想起させる。 ○身近な資料から収集・選択するように促す。 ◇多面的な見方・考え方ができるように、新たな資料を提示する。
課題の補充・深化・発展	9	課題解決の方策を提言する。	④ 発表の 内容		④ 自己評 価表 相互評 価表		○ポイントを意識させ、分かりやすく伝えられるようにアドバイスする。 ◇様々な立場から、解決の方策を提言するよう促す。
	10	地方自治の基本的な考え方を理解する。		④ シート		③ テスト	○中学生としてできることを具体的に考えるよう助言をする。 ◇社会的な価値・意味から自分がどのようにかかわっていくか、意思決定を促す。

観 察 : 生徒観察 発 言 : 発言内容 シート : ワークシート テスト : ペーパーテスト

6 学習活動と記録

前時	本時					次時
	目標と学習内容	主な学習活動と形態	評価の観点・方法	資料・留意点	生徒の様子・記録	
ねらい 事前 ・これからの学習への関心の喚起	1 単元の見通しを持つ。	1 ・この単元の流れを確認する。 (一斉学習)		・社会科カルテを配布する。 ・ワークシートを配布する。	・社会科カルテの評価の欄を見て、おおかたの生徒は、見通しを持っていた。	ねらい ・地域の防災の課題をあげ、まとめる。 ・環境整備、構成人員などの面から多面的に考察する。
	2 地域のかかえる課題について資料から読み取る。	2 ・地域の課題とその理由をワークシートに記入する。 (個別学習)	【アの①】 地域の課題に対して関心を持ったことを意欲的に考えたり、ワークシートに記入したりしている。 (観察) (ワークシート) (社会科カルテ)	・「身近な地域」を振り返る。 ・大人と中学生との違いに気付かせる。	・区民と中学生の違いを%だけからあげた生徒が多かった。 ・区民と中学生の違いについて、その理由や予測も含めてあげている生徒が少数いた。	
学習活動 ・品川区への要望を記入する。	3 備蓄倉庫の見学 目標 ・地域の課題を資料の読み取りから知る。 ・備蓄倉庫の見学を通して、地域防災の課題を考えるきっかけをつくる。	3 ・備蓄倉庫にある備蓄品を予想する ・災害時の収容人数を予想する。 ・備蓄倉庫を見学する。 ・見学の内容をワークシートへ記入する。 (グループ学習)	【ウの①】 備蓄品についてワークシートへ記入し、まとめている。 (観察) (ワークシート) (社会科カルテ)	・備蓄倉庫の物品を移して数を把握させる。 ・グループごとに調べた物品を全体に知らせる。	・備蓄倉庫の場所を尋ねると、生徒の雰囲気や和やかになった。 ・備蓄倉庫にあるものを想像する段階では、毛布や乾パンは直ぐにあがってきた。 ・避難してきたことを想像させると、トイレや医療品、粉ミルクなどがあげられた。 ・アルファ化米についての質問が多数あげられた。	学習活動 ・備蓄倉庫の見学や資料等をもとに課題づくりを行う。 ・防災の課題への方策や質問事項をまとめる。
	4 見学のまとめと課題づくり	4 ・学校の収容人数等の資料を読み取る。 ・見学を通して気付いたこと、課題をグループごとにまとめる。 (個別学習) (グループ学習)		・数のみの面からの考えとならぬようにさせる。	・多くの生徒が一時避難・長期避難ともに、実際の数よりも少なく見積もっていた。 ・部屋の収容人数に対しても「無理ではないか」との意見が多かった。	

7 評価と具体的手だて

(1) 授業中における「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への具体的な手だて
※本時の評価項目であるアの①はワークシート②を、ウの①はワークシート④を基に行った。

○【アの①】についての具体的な手だて例

グラフの読み取りができていない生徒へ
↓
<具体的な指導の手だて> 「高齢者福祉も高いね。」と一緒にグラフの読み取りをする。
グラフに関心を示し、グラフの比較をはじめ。

○【ウの①】についての具体的な手だて例

備蓄倉庫の中が想像できず、関心がもてない生徒へ
↓
<具体的な指導の手だて> 「怪我をしてきた人はどうするの」と関心を引き出す。
「救急箱」と記入する。

(2) ワークシートによる評価例【アの①】とその後の指導

「おおむね満足できる」状況(B)については、評価規準をもとに資料の数字や分かることをあげて課題としてとらえている場合に判断する。「十分満足できる」状況(A)と判断する視点としては、単なる数字の比較だけでなく、自分(中学生)の立場や大人(区民)の立場まで、様々な立場に立って課題としてとらえるなど、深まりや高まりが見られた場合に判断する。「努力を要する」状況(C)は、資料に示されていることを書き写しているだけであったり、課題につながっていなかったりなど「おおむね満足できる」状況に達していないと思われる場合に判断する。

①「十分満足できる」状況(A)と判断した生徒の具体例(質的な高まりや深まりが認められる)

区民と中学生の両方とも、教育に力を入れて欲しいと思っている。今の学校教育を、もっと厳しくした方がいいと思っているのか、ゆとりをもった方がいいと思っているのか、知りたい。また、区民より中学生の方が青少年問題と女性問題の数値が高かったことに気がついた。大人の方が女性差別があるのに、なぜ中学生の方がもっと力を入れて欲しいと思っているのか謎だ。

②「おおむね満足できる」状況(B)と判断した生徒の具体例

- ・ 環境問題は、区民も中学生も一番多い。
- ・ 中学生は学校で勉強しているので、学校教育に力を入れて欲しいと思っている人が区民よりも多い。
- ・ 子育て支援については、中学生は区民と比べて少ない。

③「努力を要する」状況(C)と判断した生徒の具体例とその後の指導

環境問題のほうが多いと判明しました。交通安全対策は、平成14年と比べた結果、平成15年の方が25.0%で、平成14年は10.2%です。平成14年は少なかったが、平成15年ではさらに上昇してきました。防災対策では、平成14年は18.6%でした。平成15年は、31.3%でかなり増加してきました。

資料の数値は読み取れているので、その点をほめながら、質問の趣旨(平成14年調査のアンケートの区民の意識と平成15年調査のアンケートの中学生の意識について、見比べて読み取れることをあげる。)を再度、説明し、読み取れることを書き直させる。

8 補助簿・社会科カード等

(1) 補助簿の一部例

	1時間目	2時間目	3時間目	総合評価			
	関:地域の課題に意欲的 資:備蓄品について記入し、ま とめている	思:防災を考察、課題を見出す 資:資料・見学を基に防災の情 報をまとめている	関:意見交換に積極的 資:適切な質問、意見発表	関	思	資	知
1氏名	関C:具体的な声かけで記 入		資A:意見を受けて自分の 考えを述べる	B	B	A	B
2氏名		資A:複数の資料をまとめ ている	関A:意欲的に意見交換	A	B	A	A

※ AとCのみ記入。無理なく継続して記入するために、授業後に分かる程度の記入にとどめる。

(2) 社会科カードの一部例(本校では、社会科カードを「社会科カルテ」と名付けた。)

<評価の記録>欄の一部

1	【関】区民の要望をもとに、意欲的に地域の課題を考えた	A / B / C
	【資】資料を適切に活用し、備蓄品についてのワークシートへの記入ができた	A / B / C
2	【思】環境面や構成人員などの面から考察することができた	A / B / C
	【資】資料や見学から、防災についての情報をまとめた	A / B / C

※ 毎時間、生徒はA/B/Cの欄に○をつけて提出する。教師は、A/B/Cの教師の評価をゴム印で押して生徒に返す。

「分かったことがら・考えたことがらを記入しよう!」欄の一部

時	日	授業で考えたこと・分かったこと
1	9/28	生徒:区民も中学生も環境に関することがらが、一番割合が高いことが分かった。 教師:普段の生活から気付いたことは、何かありませんでしたか。
2	10/8	生徒:一時避難で、学校にあんなに滞在できるとは思えない。 教師:一時避難では、どのくらいの時間を想定しているのか分かりましたか。調べてみてください。

※ 毎時間、生徒は考えたこと・分かったことを記入して提出する。教師は、ワークシートとともに評価の参考にし、「努力を要する」状況(C)と判断した生徒に対しては、助言を行う。

この単元の総合評価(A/B/Cを付ける)

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
A	B	A	B
理由 2つの課題を通して、地域の課題に関心を持つようになったから。	理由 課題に対する方策を自分なりに考えることができたから。	理由 意見交換や発表会で、積極的に、かつ、分かりやすく伝えられたから。	理由 地方公共団体の仕組みについて一応理解できたから。
先生から 地域の課題に対しての関心が高まりました。	先生から 防災に対する方策は、よく考えられていました。	先生から 発表会では、説得力のある説明ができていました。	先生から 住民の権利については再確認しておきましょう。

※ 単元の終了時に、生徒は総合評価(A/B/C)をつけ、その理由を書く。教師は、毎時間のA/B/C評価の総括として評価を行う。ここでは、言葉で記入をした。

V 研究のまとめ

1 個に応じた学習指導にかかわる研究開発

生徒に基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、生きる力を育成するためには、目標に準拠した評価を行い生徒の学習の実現状況を的確に評価し、個に応じた指導を行うことが大切である。

(1) 指導と評価の計画の立案

生徒の学習の実現状況を的確に評価するための、指導と評価の計画の立案に関する留意点としては、次のことがあげられる。

- ① 生徒の学習の実現状況について、毎時間、すべての観点について評価することは不可能である。単元の中で、指導の計画に評価の計画を位置づけて、指導と評価の計画を作成し、観点ごとの評価を無理なく計画的・継続的に行うことが大切である。
- ② 授業の中で、生徒一人一人を評価し個に応じた適切な指導をするためには、各時間において教師主導による一斉指導ばかりではなく、作業的な学習等を取り入れ、個に応じた指導をする場面を設定することが必要である。また、単元構成の中に個別やグループ別による作業的・体験的な学習や適切な課題を設けて行う学習を取り入れることも大切である。なお、もし可能であれば単元の中で二回以上取り組み、二度目は一度目を生かして補充的・発展的指導ができるように展開できれば、より効果的である。
- ③ 確かな評価と適切な指導の手だてを行うためには、「おおむね満足できる」状況（B）を明確にするとともに、事前に「努力を要する」状況（C）と判断する生徒への具体的な指導の手だてや「十分満足できる」状況（A）と判断する具体的な視点などを想定しておき、実際の指導に生かすことが必要である。

(2) 指導と評価の実際における工夫

グループ活動に取り組む姿勢の観察など、授業の中で評価することができる場合は、その場で評価する。その際、補助簿を活用するとより有効である。「社会的事象への関心・意欲・態度」や「社会的な思考・判断」など、多面的・多角的に評価することが必要な場合には、ワークシートや社会科カード（振り返りカードを含む）等を授業後に回収して評価に生かすことも大切である。

- ① 補助簿のうち、座席表形式は、一斉指導の中での生徒の発言や班活動の様子を記録する場合などに有効であり、名簿形式は、ノートやワークシートの評価を記録する場合などに有効である。これらを踏まえながら、教師が記入しやすく継続して評価できるものを工夫することが大切である。
- ② ワークシートは、教師のねらい（評価の観点）を明確に示しながら、計画的に活用を図ることが大切である。しかし、多用すると生徒の負担過重になることもある。
- ③ 社会科カードは、単なる生徒の自己評価として活用するだけでなく、教師も生徒の学習に対する評価やアドバイスを記入して返すことにより、評価したことを生徒の次の学習への意欲につなげることができる。また、教師は、次時の授業改善に生かすこともできる。これも、生徒及び教師の負担過重とならず、継続的に指導に生かせるものを工夫することが大切である。

2 今後の課題

今回の研究開発においては十分取り組めなかったが、以下の点についても、今後、研究開発を進めるとともに有効性を検証していきたい。

- ① すべての教師が、無理なく継続的に目標に準拠した評価に取り組めるように、一層の指導と評価の計画、評価場面、評価方法等の工夫・改善をする必要がある。
- ② 生徒の学習の実現状況を的確に評価し、生徒一人一人に確かな力を身に付けさせるためには、「おおむね満足できる」状況（B）を生徒の具体的な姿をもとに、より明確にするとともに、教科担当の教師間で（B）の状況の十分な共通理解を図ることが大切である。
- ③ 補充的な指導や発展的な指導を効果的に行うためには、一層の個に応じた教材開発やワークシート等の工夫・改善、的確なアドバイスの提示の仕方、社会科カードの活用の仕方などについての研究に取り組むことが必要である。